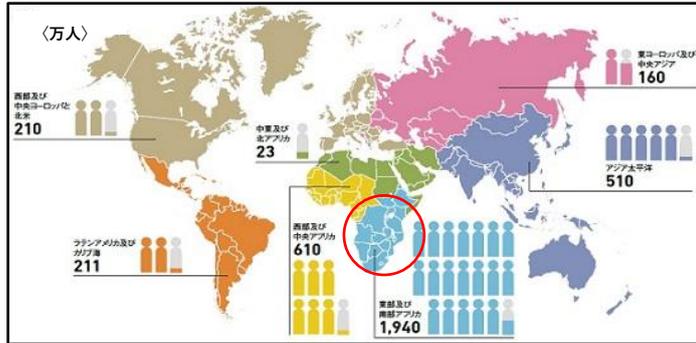


マラウイ通信

渡邊拓人 17-2
行政サービス
ドロー県立病院

地域別に見たHIV陽性者数（2016年）



【HIV/AIDS】マラウイが抱える大きな問題の一つとして取り上げられているHIV/AIDS（エイズ＝後天性免疫不全症候群）。世界的な統計を見てもアフリカ大陸のサハラ砂漠以南の感染率は非常に高く、マラウイもその地域に入ります。その原因には一夫多妻制などの婚姻制度や宗教問題等が関係しており、深刻な現状が続いています。

マラウイでは約10人に1人がHIV陽性者といわれていますが、現在ではHIV感染は死の病気ではありません。早期発見をし適切な治療を受ければ、HIV陰性者と変わらない生活を送ることが出来ます。その為にもHIV/AIDSにきちんと向き合い、感染予防や暴露後のケアに努める必要があります。しかし、《HIV＝性の病》という人々の認識の理由から、差別や偏見を恐れ検査や治療を拒否する人も多くいます。その為、マラウイの農村部では、HIV陽性者から同じHIV陽性者に対してサポートを行う地域住民組織も活発に動いています。彼らは、病院でのカウンセリングだけでは行き届かない（声の届かない）心のケアを行い、HIV/AIDSの啓発に貢献しています。一方、日本では約2万がHIV陽性者といわれており、若年層では感染率が増加傾向にあります。世界の一人一人がこの問題に目を背ける事無く、認識・知識を高める事がHIV/AIDS問題解決へと導いて行くでしょう。



陽性者グループ
の収入向上活動

HIV検査の様子



二月の大地。どこまでも
青い草木が広がります。



八月の大地

【雨期と乾季】マラウイは一般的に熱帯へと区分されており、雨期が十一月から四月、乾季が五月から十月となります。乾季の間は雨が降らず非常に乾燥している為、砂埃が酷く、電気・水道の状況が悪化します。また、雨季の間では、毎日の様に雨が降り続き建設整備等が整っていない地域では、度々豪雨による被害が絶えません。他にも雨季と乾季で明らかに違うものが大地の色です。雨季のシーズンになると、今か今かと雨を待ちわびていた草木が一斉に芽をあげ、天高く伸び始めます。日々通う病院までの道のりの植物の成長は早いのかと驚きます。

【後記】私は花粉症であり、日本に居た頃は長年花粉症に悩まされてきました。マラウイへと飛び立つ前には、花粉症対策の為に薬を大量に準備し飛行機に乗り込みました。しかし、マラウイに住み、生活している中で、花粉に悩まされたことが無い事に気付きました。鼻が詰まって息苦しいような事はありません。長年の2年間で花粉症がマラウイで無い事に思いがけありません。メリットを発見できました。

【突然の訪問者】よくある事なのですが、全く知らない人が突然我が家を訪ねてきました。今回は小学生4人なのですが、お昼の時間に「お腹が空いた、何か食べ物をくれ」と言ってきました。結局一緒にシマを作り庭で食べる事になりました。食後には家の庭を綺麗に掃除して帰って行きました。

